

道徳科における情報モラルに関する指導の充実

— 児童の発達段階に合わせた

「情報モラル指導資料集」の作成と活用を通して —

長期研修員 金井 康朗

《研究の概要》

本研究は、児童の発達段階に合わせた「情報モラル指導資料集」の作成と活用を通して、情報モラルに関する道徳科の授業の充実を目指したものである。「情報モラル指導資料集」は、三つの資料で構成される。

- ①インターネット上のトラブル等を内容に盛り込んだ自作の読み物教材
- ②読み物教材を使用した授業の展開例
- ③児童の変容を見取るワークシート

自作の読み物教材には、児童の発達段階に合わせ、インターネット上のトラブル等を盛り込むことで、児童が自分の身近な出来事として捉え、道徳的価値について自分との関わりで考えられる資料となっている。「情報モラル指導資料集」の活用が児童の情報モラルに関わる道徳的価値の理解を深めることに有効であることを明らかにした。

キーワード 【道徳 情報モラル 読み物教材 発達段階】

群馬県総合教育センター

分類記号：G10-01 令和4年度 279集

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年7月）では、道徳科での情報モラルに関する指導について、「児童の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること」と示され、学校や児童の実態に応じた情報化への対応として、情報モラルに関する指導の充実を図る必要が求められている。情報モラルとは、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度であり、道徳科の学習では、特に「情報社会の倫理」や「法の理解と遵守」に関わる内容を中心に扱うことが示されている。

群馬県教育委員会発行の「令和4年度学校教育の指針」では、豊かな人間性の育成に向けて、生徒指導、人権教育、道徳教育の充実を図り、ICTの効果的な活用と併せて、ICTを適切に利用、活用する力であるICTリテラシーの向上の推進が示されている。その理由として、GIGAスクール構想による1人1台端末の整備など、学校の教育環境の変化が挙げられている。この環境の変化に対応するべく、学校教育においても教科等横断的に情報モラルに関する指導を行うことが示されている。そのため、人格を形成するための基盤となる道徳教育の寄与するところは大きく、核となる道徳科においても、児童が学習を通して養われた道徳性を生かし、情報社会で適正な活動が行えるよう指導の充実を図る必要があると考える。

情報化が急速に進展する社会において、スマートフォンなどの情報機器が広く個人にも普及する中で、情報の受け手としてだけでなく、SNSなどを利用した情報の発信といった、情報の送り手としての立場になり、子供たちの日常生活にも大きな変化が生まれている。児童にインターネットの利便性について理解させると共に、ネットワークの有害情報や悪意のある情報など、情報の危険性について考えさせることが課題とされている。

このような子供たちを取り巻く情報社会の課題の解決に向け、国や県では、各教科や領域の学習で活用できる情報モラルや情報セキュリティに関する動画教材や指導の手引きなど、指導資料の充実が図られており、道徳科の教科書の中にも、情報モラルと関連させた教材が盛り込まれている。道徳科の教材について、小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編では、「児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること」と示されている。特に情報化への対応等の現代的な課題を題材として扱う際には、児童が問題意識をもって、多面的・多角的に考えられるよう、充実した教材の開発や活用を行うことが示されている。また、情報モラルに関わる指導について、単に情報機器の操作や活用など、その注意点を扱うのではなく、道徳的価値について考えを深めることが大切であるとし、「節度、節制」や「規則の尊重」などの内容項目と関連させながら情報モラルの指導を行うことの重要性が示されている。

研究協力校（以下、協力校）においては、道徳の教科書を用いて道徳における情報モラルに関わる指導を行っているが、より児童の実態に合わせた指導を行おうとすると、教科書以外の教材を探し出したり、自ら教材を作成したりする必要があるという声が聞かれた。そこで、児童のインターネットの利用状況などを基に、児童の発達の段階に合わせた情報モラルに関わる教材を作成しようと考えた。また、道徳科で情報モラルに関わる授業を行った際に、児童が教材の内容を自分自身のこととして捉えることが難しい場面が見られたことから、児童がより自分の身近なこととして考えられるような道徳科の教材を求める声が挙がっていた。このような状況から、道徳科の授業で養った道徳性を生かして、児童が情報社会で適正な行動がとれるよう、実際のインターネット上でのトラブルなどを内容に盛り込み、児童の発達の段階に即した教材があると、道徳科における情報モラルに関する指導が更に充実すると考えた。

以上のことから、児童の発達の段階に合わせた「情報モラル指導資料集」の作成と活用を通して、道徳科における情報モラルに関わる指導の充実を図るため、本主題を設定した。

II 研究のねらい

道徳科において、情報モラルに関する指導の充実のために、児童の発達の段階に合わせた「情報モラル指導資料集」を作成し、活用することの有効性を明らかにする。

Ⅲ 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 情報モラルと道徳科について

文部科学省の「教育の情報化に関する手引き」（令和元年12月）によると情報モラルには、「日常モラル」と「情報技術の仕組み」が含まれる（図1）。「日常モラル」には、自分がやりたいことや欲しいものを我慢するという「節度」や人とコミュニケーションを取るために必要となる「思いやり」などが含まれる。「日常モラル」は、道徳科の内容項目と重なる内容が多い。また、「情報技術の仕組み」には、インターネット上の書き込みは、世界中に公開されるという「公開性」や情報技術の進展によって作り出されたオンラインゲームなどは、夢中になるとやめられなくなるという「依存性」などが含まれる。「日常モラル」と関わりの深い道徳科で、「情報技術の仕組み」を取り入れた教材を使った授業を行うことで、道徳科における情報モラルに関する指導の充実が図れるものと考えられる。例えば、「規範」について考える授業において、オンラインゲームに夢中になり、きまりが守れなくなるという「依存性」に関する教材を使用することで児童が情報モラルについての理解をより深められるようになると考える。

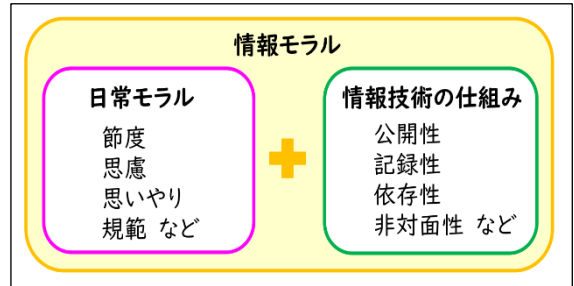


図1 情報モラルとは
（「教育の情報化に関する手引き」を基に作成）

また、国立教育政策研究所の「情報モラル教育実践ガイド」（平成23年）によると、情報モラル教育の内容として、「情報社会の倫理」「法の理解と遵守」「安全への知恵」「情報セキュリティ」「公共的なネットワーク社会の構築」の5分野が示されている（図2）。小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編によると、特に道徳科では、心を磨く領域である「情報社会の倫理」と「法の理解と遵守」の内容を中心に扱い、「B 親切、思いやり」や「C 規則の尊重」などの内容項目との関連を図りながら指導することが示されている。

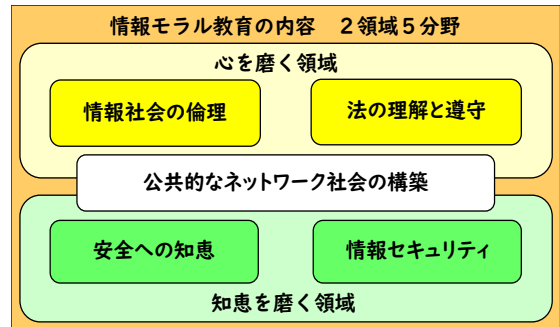


図2 情報モラル教育の内容
（「情報モラル教育実践ガイド」を基に作成）

(2) 道徳科の教科書と情報モラルの関連について

令和4年現在、群馬県内の小学校の道徳科の教科書として、5社の教科書が採択されている。そのいずれの教科書にも情報モラルとの関連を示した教材が盛り込まれているが、教材で扱う題材や指導時期など教科書ごとに違いが見られる。教材の内容項目を見てみると「A 善悪の判断、自律、自由と責任」「A 節度、節制」「C 規則の尊重」と関連させた教材が多く見られる（表1）。

教材の内容を見ると、小学校低学年では、決まりを守ることや人の作った物を大切にすること、中学年では、情報機器の節度ある使い方やインターネット上のコミュニケーションに関わること、高学年では、情報社会でのルールや法を守ることや著作権に関することが主に取り上げられている。

表1 各教科書の情報モラルに関わる教材の内容項目

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各教科書における情報モラルと関連する教材の内容項目	A 正直、誠実 C 規則の尊重	A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 節度、節制 B 礼儀 C 家族愛、家庭生活の充実	A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 節度、節制 C 規則の尊重	A 節度、節制 B 礼儀 B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C よりよい学校生活、集団生活の充実	A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 正直、誠実 B 礼儀 B 友情、信頼 B 相互理解、寛容 C 公正、公平、社会正義	A 善悪の判断、自律、自由と責任 A 節度、節制

(3) 児童の発達の段階に合わせた教材について

教材作成の際、児童の発達の段階を考える上で、文部科学省の「教育の情報化に関する手引き」と内閣府の「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」（令和4年3月）（以下、インターネット利用環境実態調査）の二つの資料を参考にした（表2）。

「教育の情報化に関する手引き」の中には、「情報活用能力の体系表例」が示されており、その中で、児童に身に付けさせたい情報モラルに関わる資質・能力が発達の段階に応じて、低学年、中学年、高学年で体系的に整理されている。例えば、低学年では情報モラルに関わる資質・能力として、「人の作った物を大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする」ことが示されており、中学年では、「自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする」こととなり、情報を尊重する態度についての記述が加えられる。高学年になると「情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする」こととなり、情報に関する権利について尊重しようとする態度について加えられる。本教材の作成については、「情報活用能力の体系表例」から、児童の実態に合わせた情報モラルに関わる資質・能力を選択し、そこから主題や内容項目を設定することとした。

「インターネット利用環境実態調査」の資料は、0歳から17歳までのインターネットの利用時間や利用目的を調べた実態調査である。各年齢におけるインターネットの利用状況から、その年齢で起こりやすいインターネット上のトラブルを想定し、教材の内容に盛り込んだ。例えば、第4学年（9歳・10歳）では、自分専用のスマートフォンを持つ割合が他の年齢と比べて高いことが示されている。そのことから、スマートフォンを介したやり取りで生じる問題を教材の内容に盛り込んだ。また、協力校の教師にも各学年で問題となっている情報モラルに関わるトラブルについて聞き取りをし、教材の作成に取り入れた。

以上のことから、児童の発達の段階に合わせた教材とは、①児童に身に付けさせたい情報モラルに関わる資質・能力を基にし、内容項目を設定した教材であること、②児童のインターネットの利用実態を基にし、児童に身近なインターネット上でのトラブル事例等を取り入れたものである。

表2 教材の作成で参考にした資料の一部

	情報モラルに関わる資質・能力 （「教育の情報化に関する手引き」の「情報活用能力の体系表例」令和元年 文部科学省）	児童を取り巻くインターネット利用の実態 （「令和3年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」令和4年 内閣府）
第1学年	コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ、行動しようとする	インターネットを使用する際に用いる機器について、親との共有の割合が6歳児89.7%、7歳児72.2%
第2学年	人の作った物を大切にし、他者に伝えてはいけない情報を守ろうとする	インターネットに関する啓発や学習の経験がある6歳児 15.7%、7歳児 28.1%
第3学年	情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	6歳～9歳児のインターネット利用内容において「動画を見る」90.1%、「ゲームをする」77.7%
第4学年	情報の発信や情報をやりとりする場合にもルール・マナーがあることを踏まえ、行動しようとする	9歳児と10歳児を比べ「自分専用のスマートフォンを持つ」割合が15.4ポイント上昇し、スマートフォンを使っている児童の約半数が自分専用のものになる
第5学年	発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	11歳児のインターネット利用内容において、「投稿やメッセージ交換をする」36.7%
第6学年	情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする	11歳と12歳児を比べ「投稿やメッセージを交換をする」割合が19.0ポイント、「撮影や制作、記録をする」割合が7.1ポイント上昇している

2 教材の概要

(1) 「情報モラル指導資料集」

本資料集には、インターネット上のトラブルなどを内容に盛り込んだ自作の読み物教材、読み物教材を使用した授業の展開例、児童の変容を見取るワークシートの三つの資料が含まれる。

① 自作の読み物教材

読み物教材は、児童に身に付けさせたい情報モラルに関わる資質・能力を基に内容項目を設定し、児童の発達の段階に合わせて各学年に一つずつ作成した。

ア 第1学年 教材名「とらくんのタブレット」

主題名「しょうじきなところで」 内容項目 A-(2) 正直、誠実

この時期の児童は、新しい情報機器であるタブレットに興味をもち、積極的に活用しようとする反面、タブレットの扱い方が雑になってしまったり、教師の指示を超えて操作をしてしまったりする姿が見受けられる。そのようなときに、自分の言動を他者から叱られることから逃れようとする気持ちが働き、うそを言ってごまかしてしまうことがある。そこで、内容項目に「正直、誠実」を取り入れた教材を作成した。タブレットを壊してしまい、素直に謝れない主人公の姿を通して、うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活する大切さについて考える教材である。

イ 第2学年 教材名「新聞づくり」

主題名「正しいと思うことを」 内容項目 A-(1) 善悪の判断

この時期の児童は、インターネットに関する啓発や学習の経験が少なく、情報モラルに関する行うべきよいことと、してはならないことを正しく区別できる判断力が十分に養われていないということが懸念される。そこで、内容項目に「善悪の判断」を取り入れた教材を作成した。新聞係である主人公が友達の新しい家の場所を新聞に載せるかどうか、悩む姿を通して、自分が正しいと思ったことができた時の清々しい気持ちについて考える教材である。

ウ 第3学年 教材名「オンラインゲーム」

主題名「きまりを守って生活するには」 内容項目 C-(11) 規則の尊重

この時期の児童は、インターネットを介して、動画の視聴やゲームを行っている児童が多く、自分を律する心の成長が十分でないことから、動画の視聴やゲームに依存し、家庭のきまりや約束を守らずに過ごしてしまうことがある。そこで、内容項目に「規則の尊重」を取り入れた教材を作成した。オンラインゲームのアイテムを親に伝えずに購入してしまい、後悔する主人公の姿を通して、自分自身で考えてきまりを守って生活する大切さについて考える教材である。

エ 第4学年 教材名「メールの返信」

主題名「相手のことを考えて」 内容項目 B-(10) 相互理解、寛容

この時期の児童は、自分専用のスマートフォンを所有する児童が増え、友達とのやり取りもSNSやメールを介したものが多くなり友達とのやり取りにおいて、相手のことを考えずに自分勝手に行動した結果、相手との関係を悪くしてしまうことがある。そこで、内容項目に「相互理解、寛容」を取り入れた教材を作成した。相手の立場や都合を考えずに、メールの返信がないことに腹を立てる主人公の姿を通して、相手の立場を受け止め、相手への理解を深めることの大切さを考える教材である。

オ 第5学年 教材名「動画の投稿」

主題名「責任ある行動とは」 内容項目 A-(1) 自由と責任

この時期の児童は、投稿やメッセージの交換にインターネットを利用することが多く、自分の考えや意見を自ら発信する児童も少なくない。また、周囲への影響を考えずに情報を発信した結果、トラブルになるケースも見受けられる。そこで、内容項目に「自由と責任」を取り入れた教材を作成した。自分勝手な考えで友達とのダンスの動画を投稿してしまった主人公の姿を通して、自律的で責任のある行動をとることの大切さについて考える教材である。

カ 第6学年 教材名「町のキャラクター」

主題名「権利を尊重するとは」 内容項目 C-(12) 規則の尊重

この時期の児童は、自ら撮影した物や制作した物をインターネットを介して発信する機会が増える傾向にある。その際に、インターネット上の画像や文章を勝手に使用し、お互いの権利を尊重するまでには至らず、トラブルになるケースが見受けられる。そこで、内容項目に「規則の尊重」を取れた教材を作成した。インターネット上のイラストを自分の町のキャラクターの募集に無断で応募してしまった主人公の姿を通して、他人の権利を理解、尊重することの大切さについて考える教材である。

② 展開例とワークシート

「情報モラル指導資料集」には、自作の読み物教材を使った授業の展開例とワークシートが含まれる。展開例は、令和元年群馬県教育委員会発行の「はばたく群馬の指導プランⅡ」を基に「導入」「展開」「終末」という道徳科の基本的な授業の流れに沿って作成した(図3)。

「導入」では、授業で扱う道徳的価値と自分の考えのずれを把握させることで、問題意識をもたせ、そこから内容項目に関わる、めあてをつかめるようにした。

「展開」では、「展開前段」「展開後段」に分け、「展開前段」は、中心発問により、教材を通して児童に道徳的価値について考えさせ、交流を通して道徳的価値を多面的・多角的に捉えられるようにした。「展開後段」は、学習のめあてについて改めて気付いたことや考えたことを問い掛けることで、児童の道徳的価値の理解を深められるようにした。「終末」では、今までの自分を振り返り、これからのよりよい生き方について具体的にどのようにしていきたいかということを考えさせ、児童がよりよい自己の考えや生き方への思いや願いを深められるようにした。

児童の考えを見取るために授業の展開例に合わせたワークシートを作成した(図4)。ワークシートは、授業の展開例に即し、「学習のめあて」「中心発問に対する自分の考え」「学習の振り返り」を記入できるように作成した。

(2) 「情報モラル指導資料集」の活用

① 1単位時間での活用

「情報モラル指導資料集」の活用として、自作の読み物教材を使った1単位時間の授業を行う。1単位時間の活用では、児童の実態やクラスの課題などに合わせて、時期を問わずに教師が読み物教材を選択し、授業で使用することができる。

② 「情報モラルユニット」での活用

情報モラルに関わる教科書の教材と自作の読み物教材を組み合わせた「情報モラルユニット」での活用を行う。「ユニット」とは、同一もしくは異なる内容項目を関連させて作成する複数単位時間の授業構想のことである。情報モラルに関わる教科書の教材と、自作の読み物教材を組み合わせることで「情報モラルユニット」とすることで単位時間ごとにつながりのある授業を目指した。「情報モラルユニット」を取り入れる利点として、情報モラルに関わる教材同士を関連させながらまとまりのある授業を行うことで児童が道徳的価値を多面的・多角的に捉えられるということが挙げられる。

「情報モラルユニット」では、児童に身に付けさせたい情報モラルに関わる資質・能力を参考にして「ユニットテーマ」を設定した(次ページ表3)。例えば、中学年の情報モラルに関わる資質・能力である「情報の発信や情報をやり取りする場合にもルールやマナーがあることを踏まえ、行動しようとする」から、「インターネット上の適切なやり取りについて考えよう」というテーマを設定した。また、「適切なやり取り」や「ルールやマナー」について考えを深められるように、「B 相互理解、寛容」や「C 規則の尊重」と関連する教科書の教材と組み合わせた。「情報モラルユニット」を通して考えの変容を見取れるように情報モラルユニット用のワークシートを作成した(図5)。ワークシートには、ユニットテ

小学校第4学年 主題名と相手のことを考えて 内容項目 第一 (1)相互理解、寛容 教材名 「メールの返信」 ねらい メールの返信がないことに腹を立てる主人公の姿を通して、相手の立場を察し止め、相手の理解を深め、よりよい関係を築こうとする心構えを育てる。			
導入	学習活動と発問 ○中心発問 ○構造的発問 【各】①「中心発問」 1. 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○友達とうまく理解し合えなかったことは、ありませんか。 【閉鎖発問】 相手のことを理解しようとしていない時があるな。	・予想される児童の反応 ・委員会の活動で、意見が合わずに話し合いがなかなか進まなかった。	・支援及び指導上の留意点 ・友達とごくくしくしたときのことなどを具体的に思い出しさせる。そんなとき、どうすればよいかを考え、どうやっていくことを促す。めあてにつなげる。
めあて よく考えて行動することが大切な理由をたずねよう。			
展開	2 教材文の筋道を聞く。 ○教材文として、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○真向からの返信がないことに「わたし」はどのようなことを思っているか。 ○姉のメールに気が付いた時の「わたし」の気持ちを考えよう。 ○真向に対する態度について考えよう。どのようなことを考えたか。 ○「わたし」は真向に対して、どのような行動を取ればよいかを考えてみよう。	・早く返信してよ。 ・返信ができないじゃない。 ・気が付かなかった、どうしよう。 ・お姉ちゃんに怒られる。 ・自分のことばかり考えていたな。 ・相手の状況を考ええていなかったな。 ・まずは、真向に返信しなかった理由をきちんと聞けばよかった。	・「わたし」の一方的な都合で真向に対して腹を立てていることを理解する。 ・児童の実態に応じ、「非対面でのやり取り」について説明する。(情報モラルメモ) ・グループで話し合い、お互いの気持ちを話し合い、受け入れようとする姿勢が人間関係を築く上で大切であるという考えを促す。 【閉】中心発問：考えの共有
	4 道徳的価値に対する多様な意見を聞き、学習のめあてについて、もう一度考える。 ○相手の事を考えて行動することはなぜ大切なのでしょう。	・お互いの関係をこわさないようにするため、自分も同じような失敗をしないようにしよう。	・自分の思いを丁寧に伝えて相互理解を図り、相手の行動を受け入れる寛容な心をもつことの大切さを確認する。
終末	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。	・まずは、相手の言うことをよく聞いてから、自分の考えを伝えていきたい。	・自分の生活に引き付けて、相互理解、寛容の大切さについて考える。
評価の観点 態度のある生活の大切さや、よく考えずに行動することが自分や周囲に与える影響について考えている。 (情報モラルメモ) 非対面でのやり取り(取引)・・・インターネットを介した非対面のコミュニケーションでは、相手の状況が伝わりにくく、誤解が生まれやすい。			

図3 授業の展開例の一部(第4学年)

道徳とワークシート	四年 組名前	「メールの返信」 めあて	○本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○友達とうまく理解し合えなかったことは、ありませんか。 【閉鎖発問】 相手のことを理解しようとしていない時があるな。	○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。
○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。	○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。	○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。	○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。	○これから、お互いが分かり合うために、どのように過ごしていきたいか。

図4 ワークシートの一部(第4学年)

マに対する初めの考えと情報モラルユニットの授業後の振り返りをワークシートに記入する欄を設けた。

表3 「情報モラルユニット」の組合せ例（第4学年）

ユニットテーマ	「インターネット上の適切なやり取りについて考えよう」
○テーマに対する自分の考えをワークシートに記入する活動	
第1時 教科書	○主題名「分かり合うために」B-(10)相互理解、寛容 ○教材名「つまらなかった」(出典：光村図書)
第2時 教科書	○主題名「みんなが気持ちよく」C-(11)規則の尊重 ○教材名「雨のバスでいりゅう所で」(出典：光村図書)
第3時 自作	○主題名「相手のことを考えて」B-(10)相互理解、寛容 ○教材名「メールの返信」(読み物教材)
○テーマに対する自分の考えをワークシートに記入する活動	

「情報モラルユニット」シート

4年 組名 姓

「情報モラルユニット」テーマ
「インターネット上の適切なやり取りについて考えよう」
○インターネットを使ったやり取りで、大切なことはなんだろう。

「
」で考えたこと

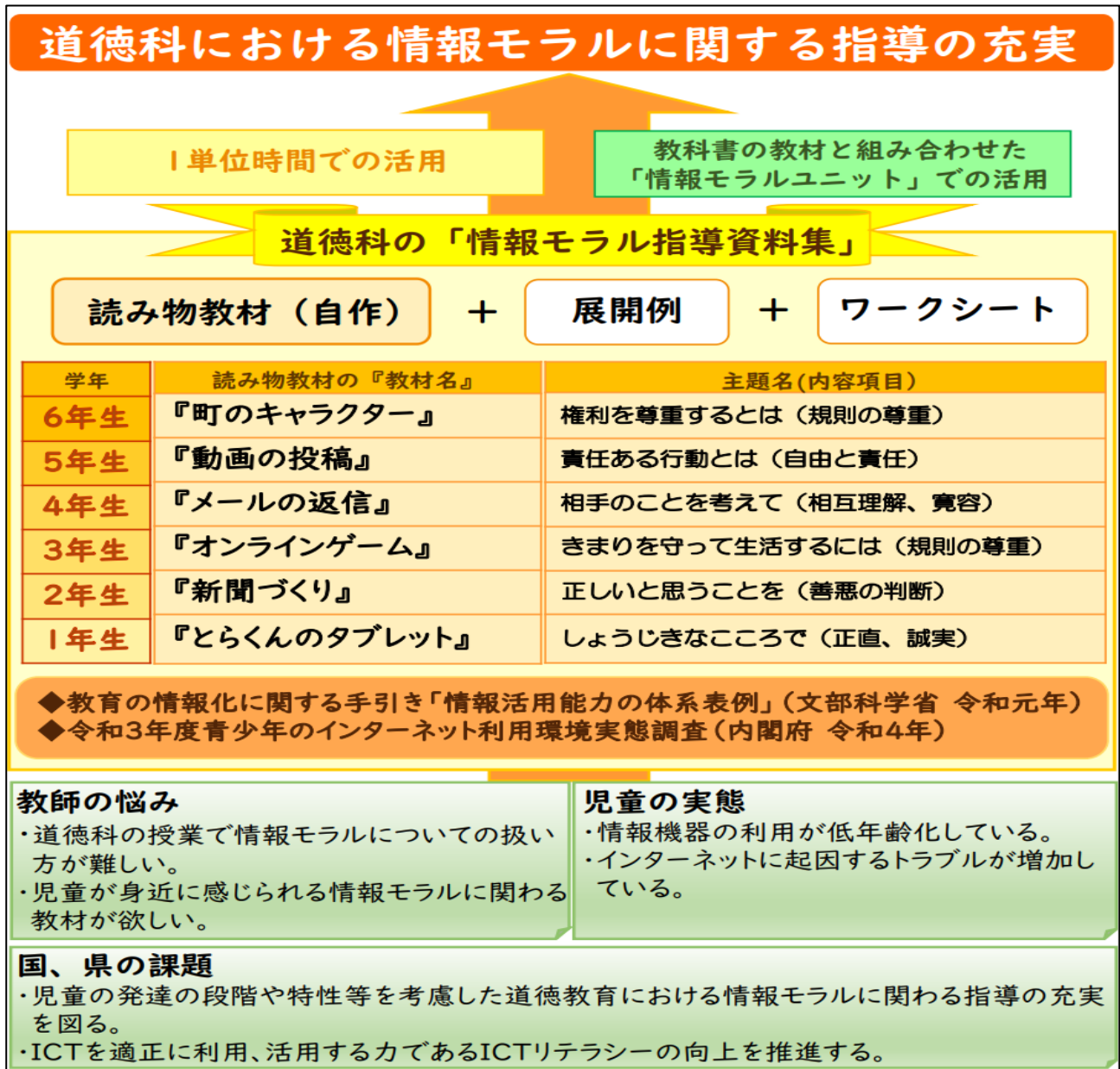
「
」で考えたこと

「メールの返信」で考えたこと

もう一度考えよう
○インターネットを使ったやり取りで、大切なことはなんだろう。

図5 「情報モラルユニット」用のワークシート（第4学年）

3 研究構想図



IV 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 小学校第1学年 42名（2学級）	
実践期間	令和4年10月11日～10月25日 4時間（各学級2時間）	
第1学年	自作の読み物教材	教科書の教材（出典：光村図書）
	主題名「しょうじきなところで」 内容項目 A-(2)正直、誠実 教材名「とらくんのタブレット」	「情報モラルユニット」テーマ 「みんなの場所や物を大切にしよう」
	ねらい タブレットを壊してしまい、素直に謝れない主人公の姿を通して、うそやごまかしをしないで明るい心で生活しようとする道徳的な心情を育てる。	教材名「みんながつかうばしょだから」 内容項目 C-(10)規則の尊重
対象	研究協力校 小学校第2学年 45名（2学級）	
実践期間	令和4年9月27日～10月11日 6時間（各学級3時間）	
第2学年	自作の読み物教材	教科書教材（出典：光村図書）
	主題名「正しいと思うことを」 内容項目 A-(1)善悪の判断 教材名「新聞づくり」	「情報モラルユニット」テーマ 「自分や他人の物や情報を大切に扱おう」
	ねらい 新聞係である主人公が友達の家を新聞に載せるかどうかを悩む姿を通して、よいと思ったことを進んで行うための道徳的な判断力を育てる。	教材名「角がついた かいじゅう」 内容項目 A-(1)善悪の判断 教材名「ぐみの木と小鳥」 内容項目 B-(6)親切、思いやり
対象	研究協力校 小学校第3学年 46名（2学級）	
実践期間	令和4年10月17日～10月31日 4時間（各学級2時間）	
第3学年	自作の読み物教材	教科書教材（出典：光村図書）
	主題名「きまりを守って生活するには」 内容項目 C-(11)規則の尊重 教材名「オンラインゲーム」	「情報モラルユニット」テーマ 「インターネットに夢中になりすぎないようにしよう」
	ねらい オンラインゲームのアイテムを親に伝えずに購入してしまい、後悔する主人公の姿を通して、自分自身で考えて、きまりを守り生活していこうとする道徳的な実践意欲と態度を育てる。	教材名「やめられない」 内容項目 A-(3)節度、節制
対象	研究協力校 小学校第4学年 44名（2学級）	
実践期間	令和4年11月7日～11月21日 6時間（各学級3時間）	
第4学年	自作の読み物教材	教科書教材（出典：光村図書）
	主題名「相手のことを考えて」 内容項目 B-(10)相互理解、寛容 教材名「メールの返信」	「情報モラルユニット」テーマ 「インターネット上の適切なやり取りについて考えよう」
	ねらい メールの返信がないことに腹を立てる主人公の姿を通して、相手の立場を受け止め、相手への理解を深め、よりよい関係を築こうとする道徳的な心情を育てる。	教材名「つまらなかった」 内容項目 B-(10)相互理解、寛容 教材名「雨のバスでいりゆう所で」 内容項目 C-(11)規則の尊重
対象	研究協力校 小学校第5学年 55名（2学級）	
実践期間	令和4年10月3日～10月17日 6時間（各学級3時間）	
第5学年	自作の読み物教材	教科書教材（出典：光村図書）
	主題名「責任ある行動とは」 内容項目 A-(1)自由と責任 教材名「動画の投稿」	「情報モラルユニット」テーマ 「ネットワーク上のマナーやルールを守り、責任をもって行動しよう」
	ねらい 自分たちの動画をインターネット上に投稿し、削除しきれなくなった主人公の姿を通して責任ある行動について考えさせ、自律的で責任ある行動をとろうとする道徳的な判断力を育てる。	教材名「あいさつって」 内容項目 B-(9)礼儀 教材名「いこいの広場」 内容項目 A-(1)自由と責任
対象	研究協力校 小学校第6学年 37名（2学級）	
実践期間	令和4年11月1日～11月22日 4時間（各学級2時間）	
第6学年	読み物教材（自作）	教科書教材（出典：光村図書）
	主題名「権利を尊重するとは」 内容項目 C-(12)規則の尊重 教材名「町のキャラクター」	「情報モラルユニット」テーマ 「インターネット上の権利について考えよう」
	ねらい インターネット上のイラストを使い、無断で町のキャラクターに応募してしまった主人公の姿を通して、他人の権利を尊重しようとする道徳的な心情を育てる。	教材名「気に入らなかつた写真」 内容項目 A-(1)自由と責任

2 検証計画

検証の視点	検証の方法
児童の発達の段階に合わせた「情報モラル指導資料集」を活用することは、児童が自分自身のこととして道徳的価値の理解を深めることに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> 児童のワークシートへの記述 研究協力者への聞き取り
情報モラルと関わる教科書の教材と読み物教材を組み合わせ、指導したことは、道徳科の情報モラルに関する指導を充実させることに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> 児童のワークシートへの記述 研究協力者への聞き取り

3 実践

今回作成した「情報モラル指導資料集」を使った授業実践を各学年で行った。ここでは、低学年、中学年、高学年で一学年ずつ実践を紹介する。なお、情報モラルに関わる教科書教材と自作の読み物教材を組み合わせたユニットを活用した実践も行った。ユニットでの活用事例は第5学年で取り上げる。

(1) 授業実践

① 第2学年

主題名	正しいと思うことを		内容項目	A-(1) 善悪の判断
教材名	「新聞づくり」			
ねらい	新聞係である主人公が友達の家を新聞に載せるかどうかを悩む姿を通して、よいと思ったことを進んで行うための道徳的な判断力を育てる。			
時間	学習活動	○発問	◎中心発問	◇補助発問 [☆]: ICT活用
導入 10分	1	本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○よいと思ったことをしようとして迷ったことはありますか。		<ul style="list-style-type: none"> 児童の意識 指導上の留意点
	めあて よいと思ったことを進んですることが大切なのは どうしてだろう。			
展開 25分	2	教材文の範読を聞く。		<ul style="list-style-type: none"> 教室にごみが落ちていたけれど、自分が落としたごみではないので拾わなかった。 まさ子さんやみんなに喜んでもらえる新聞にしよう。 家の場所を知られると、まささんが困ってしまう。 みんなに喜んでもらえる新聞が作りたい。 まささんが困ってしまうからよい新聞にはならない。
	3	教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○まささんの家のことを聞いた時、しんじさんはどのようなことを考えたでしょう。 ◎しんじさんはどうして、まささんの家の場所を新聞に載せるかどうか悩んだのでしょうか。[☆] ◇家の場所を載せた方がよい新聞になると思いませんか。		
	4	道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。 ○よいと思ったことを進んですることが大切なのは どうしてだろう。		<ul style="list-style-type: none"> よいか悪いかをきちんと考えて行動すると、すっきりした気持ちになるから。 よいと思うことをすると、清々しい気持ちになることを確認する。
終末 10分	5	本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これまでの自分は、よいと思うことを進んでできていましたか。これからどのように生活していきたいですか。		<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことや感じたことを基にこれからのよりよい過ごし方について振り返らせる。

<p>評価の観点 ○よいことと悪いことの判断をし、よいと思うことを進んで行うことのよさについて、自分自身との関わりで考えている。</p>
--

② 第3学年

<p>主題名 きまりを守って生活するには 内容項目 C-(11) 規則の尊重 教材名 「オンラインゲーム」 ねらい オンラインゲームのアイテムを親に黙って購入してしまい、後悔する主人公の姿を通して、自分自身で考えて、きまりを守り生活していこうとする道徳的な実践意欲と態度を育てる。</p>			
時 間	<p>学習活動 ○発問 ◎中心発問 ◇補助発問 [☆]: ICT活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識 ・指導上の留意点 	
導 入 10 分	<p>1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○きまりを守らず、後悔したことはありますか。</p> <p>めあて きまりを守って生活することが大切なのはなぜだろ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題よりもゲームをしてしまって、宿題が終わらなかった。 ・普段の生活の中で、きまりを守らずに後悔した経験を思い出させ、問題意識をもたせる。 	
展 開 25 分	<p>2 教材文の範読を聞く。 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○健太さんがゲームのアイテムを手に入れたと聞いたとき、正人さんはどのようなことを考えたでしょう。 ◎請求書をじっと見つめたときの正人さんの気持ちを考えましょう。</p> <p>◇勝手にアイテムを買ったことを親に知らなければよいのでしょうか。</p> <p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。 ○きまりを守って生活することが大切なのはなぜだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アイテムを手に入れたい。 ・みんなに自慢ができる。 ・どうして、親との約束を守らなかったのだろう。 ・親と決めた約束はきちんと守らなければいけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしてもアイテムがほしい正人さんの気持ちを共感的に捉えさせる。 ・正人さんが後悔している姿を取り上げ、考えを交流させる。 [ICT活用: 考えの共有]
終 末 10 分	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これまでの自分は、きまりを守ってよく考えて生活できていましたか。これからどのように生活していきたいですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・きまりを守って行動しないと、自分も嫌な思いをするし、周りの人にも迷惑を掛けてしまうことがあるから。 ・これまでは、自分のやりたいことを優先してしまっていたので、これからは、時間を決めたり、きまりを守ったりして、よく考えて行動していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだことや感じたことを基にこれからのよりよい生活の仕方について考えさせる。
<p>評価の観点 ○きまりを守って生活することの大切さについて、自分自身との関わりで考えている。</p>			

③ 第5学年

ア 1単位時間での活用

<p>主題名: 責任ある行動とは 内容項目 A-(1) 自由と責任 教材名 「動画の投稿」 ねらい 自分たちの動画をインターネット上に投稿し、削除しきれなくなった主人公の姿を通して責任ある行動について考えさせ、自律的で責任ある行動をとろうとする判断力を育てる。</p>		
時 間	<p>学習活動 ○発問 ◎中心発問 ◇補助発問 [☆]: ICT活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識 ・指導上の留意点
導 入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について問題意識をもつ。 ○自分の言動に責任をもっていますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で相手を傷付けてしまった。 ・児童にこれまでの生活を振り返らせ、自分の言動に責任をもつ

10分	めあて 責任ある行動とはどのようなことだろう。		ているかということ意識させる。
展開 25分	2 教材文の範読を聞く。 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。 ○良子さんはどのような思いで動画を投稿しようと思ったのでしょうか。 ◎動画を投稿する前に良子さんはどのようなことを考えなければならなかったのでしょうか。[☆] ◇明美さんがよいと言ったら、動画を投稿してもよかったですでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 動画をみた人から高評価がほしかったから。 自分の思いだけで行動してはいけなかった。 動画を投稿すると、どのような影響があるかを考えるべきだった。 明美さんがよいと言っても、投稿することで、トラブルが起きないかなどをよく考えなければいけないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 良子さんが自分勝手な思いで動画を投稿してしまったことを押さえる。 良子さんが動画を投稿する前に考えるべきことについて交流させる。 [ICT活用：考えの共有] 自分勝手な行動が、思わぬトラブルにつながる可能性があるということを押さえる。
	4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについて、もう一度考える。 ○責任ある行動とはどのようなことでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 軽率な行動が周りに迷惑を掛けるかもしれないということを考えることだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 責任ある行動について、周りの人への影響や先のことを考えて行動することの大切さについて考えさせる。
終末 10分	5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。 ○これから、責任ある行動をとるために、どのように過ごしていきますか。	<ul style="list-style-type: none"> 今までは、自分勝手な考えや、やりたいことを優先してしまっていたけれど、周りの人のことや先のことも考えて行動していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見つめ、これからの生活に生かしていきたいことについてまとめさせる。
<p>評価の観点 自分の行動に責任をもつために、どのようなことに気を付けて行動すればよいかを考えている。</p>			

イ 「情報モラルユニット」での活用

「情報モラルユニット」を設定した実践である(表4)。第1時では、モジュールの時間を使い、児童にユニット用のワークシートにユニットテーマに対する初めの考えと振り返りを記述させ変容を見取った。第1時では、「礼儀の大切さ」について考えさせ、第2時では、「自由と責任」について考えさせた。そして、第3時では、自作に読み物教材を使い、「責任ある行動」について考えさせた。ユニットテーマに対する初めの考えで、「インターネットを使う時は、危険なサイトに入らないようにしたい」と記述していた児童が、振り返りでは、「インターネットを利用する時は、安全に気を付けるだけでなく、相手の考えを尊重したり、後に起こりそうなことを考えたりして責任をもって使っていきたい」と、ユニットテーマに対する考えを深めていた。

表4 「情報モラルユニット」を設定した実践(第5学年)

【ユニットテーマ】 ネットワーク上のマナーやルールを守り、責任をもって行動しよう	
ユニットテーマに対する初めの考え ・インターネットでは、危険なサイトに気を付けた方がよいと思う。 ・インターネットでの詐欺に気を付ける。	
第1時 教科書	教材名「あいさつって」 内容項目 B-(9)礼儀 めあて【心のこもった礼ぎとは、どのようなものだろう。】
第2時 教科書	教材名「いこいの広場」 内容項目 A-(1)自由と責任 めあて【みんなが気持ちよくすごすためには、どのようなことが大切でしょう。】
第3時 自作	教材名「動画の投稿」 内容項目 A-(1)自由と責任 めあて【責任ある行動とはどのようなことだろう。】
ユニットテーマに対する振り返り ・インターネットを利用する時は、安全に気を付けるだけでなく、相手の考えを尊重したり、後に起こりそうなことを考えたりして責任をもって使っていきたい ・今までは、自分のやりたいことを優先してしまっていたけれども、これからは周りの人のことや先のことも考えて行動していきたい。	

V 研究の成果と考察

1 児童の発達の段階に合わせた「情報モラル指導資料集」を活用することは、児童が自分自身のこととして道徳的価値の理解を深めることに有効であったか。

(1) 結果

「情報モラル指導資料」を使った授業の振り返りの場面での児童のワークシートの記述内容の一部と授業実践を行った教師への聞き取り調査の結果は以下のとおりである（表5、6）。

表5 児童のワークシートへの記述内容の一部

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
タブレットを壊してしまった時は、すぐに謝ることが大切だと思った。	他の人に教えてよいことと、教えるはいけないことをよく考えることが大切だと分かった。	今までは自分のやりたいことをなかなか止められなかったけれど、これからは、きまりを守るようにしていきたい。	今までは、自分の言い分だけで話を済ませてしまっていたけれど、これからは、相手の考えも聞くようにしていきたい。	今まで責任ある行動をあまり取れていなかったのでも、これからは後悔しないように、先のことを考えて行動していきたい。	このくらいならよいと思って、ルールを破ってしまったことがあったけれど、みんなが安心して過ごせるように、きちんと守っていきたい。
正直にしないと、ずっと心の中がモヤモヤしたままになってしまったことが分かった。	個人情報について考えられた。これからは個人情報を守っていききたい。	これから何か買いたい物があった時は、家族に相談するなど、よく考えてから買うようにする。	自分もこの先同じような状況になるかもしれないので、友達とメールなどでやり取りする時は、相手の状況をよく考えるようにしたい。	今まで動画の投稿をしてみたいという気持ちがあったけれども、よく考えないと周りの人に迷惑を掛けてしまうことが分かった。	これから、インターネット上のイラストや文章を使う時は、作った人の権利を侵害していないかを考えていきたい。

表6 「情報モラル指導資料集」についての聞き取り調査のまとめ

- ・1年生の子供たちにも分かりやすい内容だった。「どきどきする」という表現が不安な気持ちやどうしようという、心のモヤモヤをうまく表現していたと思う。(第1学年担任)
- ・教材中の「地図」(家の場所)が個人情報と結び付かない児童がいた。(第2学年担任)
- ・実際にオンラインゲームをしている児童も少なくないので、児童の発達の段階に合っていると思う。また、ゲームをしていない児童においても、将来とても身近なトラブルであると考えられる。(第3学年担任)
- ・SNSやゲーム等を通じて、想定している以上に子供たちがメッセージのやり取りをしていることが分かった。今回の教材を通して、児童が「自分も同じようなことをやってしまうかもしれないから気を付けたい」と身近な問題として考えられていた。(第4学年担任)
- ・日常的に動画投稿サイトなどを見ている児童が多いという実態があり、身近なこととして考えられる教材であった。(第5学年担任)
- ・調べ学習などで、児童がインターネット上の文章などを引用することもあるので、教材の内容をより身近な例として感じていた。(第6学年担任)

(2) 考察

児童のワークシートには、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで考えている記述が見られた。これは、児童が教材の内容を自分のこととして考えを深めることができたと言える。このことから、教材に盛り込まれたトラブル事例を通して、児童が自己を見つめ、自己の生き方について考えを深められていたと考えられる。また、教師への聞き取り調査の結果を見ると、第3学年以上の担任の回答に「身近なトラブル」「身近な問題」「身近なこととして考えられる教材」「身近な例」という言葉が出てきている。これは、「インターネット利用環境実態調査」などを基に各年齢における児童のインターネットの利用実態を把握した上で、教材の内容に各学年で起こりやすいインターネット上のトラブルを盛り込んだことにより、児童が教材の内容を自分自身のこととして捉えられたと考えられる。このようなことから、児童の実態に沿ったトラブル事例を盛り込むことで、児童が教材の内容を自分自身のこととして捉え、道徳的価値の理解を深められたと考える。

児童にとっては、インターネットや情報機器についての知識が十分でないため、教師が情報に関する知識の説明を加えることで、教材の内容を理解しやすくと考えられる。また、道徳科との関連を図りながら、学級活動や総合的な学習の時間で、情報機器の扱い方やルールについて具体的に指導するなど、教科等横断的な学習を行うことで、情報モラルに関する指導が更に充実すると考えられる。

2 情報モラルに関わる教科書の教材と自作の読み物教材を組み合わせたことは道徳科における情報モラルに関わる指導の充実を図る上で有効であったか。

(1) 結果

授業実践を行った協力校の児童がワークシートに記述した内容について分析を行った。表7は、抽出児童について考えの変容をまとめたものである。また、各学年の担任に教科書の教材と自作の読み物教材を合わせて指導したことについて聞き取り調査を行った（表8）。

表7 「情報モラルユニット」を通した抽出児童のワークシートの記述内容（抽出児童 第5学年）

テーマ【ネットワーク上のマナーやルールを守り、責任を持った行動をしよう】			
	児童A	児童B	児童C
ユニットテーマに対する初めの考え	<u>インターネットでは、危険なサイトに気を付けた方がよいと思う。</u>	インターネット上でやり取りする時は、人の悪口を書かないようにする。	インターネットの利用は、家族と決めたことを守ることが大切だと思う。
第1時教科書教材「あいさつって」B-(8)礼儀	挨拶の仕方は相手や状況によって変わるけれど、 <u>礼儀として誰にとっても気持ちのよい挨拶をすることが大切だと思った。</u>	みんなが気持ちよく過ごせるように自分から挨拶をしていきたい。	今まで挨拶についてあまり考えていなかったけれど、挨拶の大切さについて考えられた。
第2時教科書教材「いこいの広場」A-(1)自由と責任	<u>みんなが利用する場所では、自由に過ごすだけでなく、周りの人のことを考えて使っていきたい。</u>	公園などでは、周りを見て行動することが大切だと思った。小さい子がいるときは危ない遊びをしてほしくないようにしたい。	みんなが使う場所は、いろいろな人がいるから、他の人に迷惑を掛けないように行動していきたい。
第3時読み物教材（自作）「動画の投稿」A-(1)自由と責任	<u>自分の行動によって、この先にどのような影響があるかを考えながら責任を持った行動をとるようにしていきたい。</u>	自分勝手な考えで、周りの人に迷惑を掛けてしまうことがあると分かった。先のことを考えて行動していきたい。	友達と一緒に動画を投稿する時には、自分の勝手な思いだけでなく、相手の意見をきちんと聞くことが大切だと思った。
ユニットテーマに対する振り返り	インターネットを使う時は安全に気を付けるだけでなく、これからは自分の行動が周りの人にどのような影響を与えるのかを考えながら使っていきたい。	インターネットを利用する時は、 <u>お互いの立場を考えて、他の人に迷惑を掛けないように行動していくことが大切だと思った。</u>	インターネットを利用する時は、後で嫌な思いをしないように、相手の意見をきちんと聞いて、許可なく動画を投稿しないようにしたい。

表8 教科書の教材と自作の読み物教材を組み合わせた授業に関する教師への聞き取り調査のまとめ

- ・約束やまもりを守ることの大切さを学んだ上で、情報モラルについての教材を取り入れることで、内容項目につながりをもたせながら児童に考えさせられた。
- ・情報モラルに関わる授業を集中して行うことで、より児童に情報モラルについて意識させることができた。
- ・複数の道徳的価値を組み合わせてユニットを作ることで、児童が多様な視点で情報モラルについて考えられていた。
- ・教科書の教材と組み合わせることで、より児童の実態に合った指導をすることができた。友達とのコミュニケーションについて、インターネット上でも同じことに気を付けなければならないということを児童が考えていた。
- ・一つ一つの教材を順番通りではなく、ユニットとしてつながりを意識して授業を計画することで、ユニットテーマを意識して授業することができた。また、「この前の授業でやったことだ」という児童の声が聞かれ、授業のつながりが意識できていると実感した。
- ・教科書の教材のみであると、児童にとって他人事のようなところがあったが、読み物教材を組み合わせることで、児童がより身近なこととして考えられたと思う。

(2) 考察

児童の記述の変容を見ると、ユニットテーマに対する初めの考えでは、インターネットを利用する時に気を付けるべき事柄のみを記述する児童が多かったが、授業を通してユニットテーマに対する考えが深まっていった。例えば、児童Aのユニットテーマに対する初めの考えを見ると、「インターネットでは、危険なサイトに気を付けた方がよいと思う」という記述であった。第1時では「礼儀として誰にとっても気持ちのよい挨拶をすることが大切だと思った」と礼儀の大切さについて考え、第2時では「みんなが利用する場所では、自由に過ごすだけでなく、周りの人のことを考えて」と自由と責任について考えた。第3時の自作の読み物教材を使った授業では、「自分の行動によって、この先にどのような影響があるかを考えながら責任を持った行動をとる」と自分の行動が周りへ及ぼす影響に触れ、責任をもって行動することの大切さについて考えていた。それぞれの授業を通して、「礼儀」「自由と責任」「責任ある行

動」という、多面的・多角的な視点でテーマについて考えられていた。児童Bや児童Cは、ユニットテーマに対する振り返りで、「お互いの立場を考えて、他の人に迷惑を掛けないように行動していく」「許可なく動画を投稿しないようにしたい」と、これからの自分の行動について考えを深められた。

担任の聞き取り調査では、「ユニットとしてつながりを意識して授業を計画することで、ユニットテーマを意識して授業することができた」や「複数の道徳的価値を組み合わせることで、児童が多様な視点で情報モラルについて考えられていた」という意見が出された。「情報モラルユニット」を設定し、複数単位時間でテーマに沿って指導することは、児童が一つ一つの授業を「情報モラルユニット」という大きな枠組みの中で、つながりをもって考えられたり、多様な視点から物事を捉えたりすることに有効であったと考える。また、「情報モラルに関わる授業を集中して行うことで、より児童に情報モラルについて意識させることができた」という意見が出された。情報モラルに関わる授業を短期間に集中して行うことで、児童がそれぞれの授業で考えたことをつなぎ合わせ、道徳的価値の理解をより深められたと考える。以上のことから、情報モラルに関わる教科書の教材と、自作の読み物教材を組み合わせることは、道徳科における情報モラルに関わる指導の充実を図る上で有効であったと考える。

VI 研究のまとめ

1 成果

- 児童の発達の段階に合わせた自作の読み物教材を含む「情報モラル指導資料集」の活用により、児童がインターネット上のトラブルについて身近な問題として捉え、自分自身のこととして道徳的価値の理解を深めることができた。
- 教科書の情報モラルに関わる教材と「情報モラル指導資料集」の自作の読み物教材を組み合わせ、複数の内容項目を関連させながら指導を行うことで、児童が情報モラルに関わる道徳的価値について、それぞれの内容項目をつなぎ合わせて考えを深めることができた。

2 課題

- 情報モラルに関わる学習について、学級活動や総合的な学習の時間等と相互に関連を図りながら、道徳科を核とした教科等横断的な指導を充実させる必要がある。また、人権週間などの学校行事と関連させ、「情報モラル指導資料集」の指導時期や教科書の教材との組合せ順序を更に工夫することで、児童の実態に即して、情報モラルに関わる道徳的価値の理解をより深められると考える。
- 「情報モラル指導資料集」の活用については、変化し続ける情報社会の今日的課題、学校や地域の実態を踏まえ、読み物教材や展開例を定期的に見直し、改良していく必要がある。

VII 提言

児童の発達の段階に合わせた「情報モラル指導資料集」を道徳科の授業で活用し、教科書の教材と効果的に組み合わせながら指導を行うことで、道徳科における情報モラルの指導の充実が図れるであろう。

<参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』
- ・群馬県教育委員会(2022) 『令和4年度学校教育の指針』
- ・群馬県教育委員会(2019) 『はばたく群馬の指導プランⅡ』
- ・内田 淳(2021) 『教師が協働的に道徳科に取り組むためのカリキュラム・マネジメントについて—ユニットを導入した年間指導計画の作成を通して—』 群馬県総合教育センター

<担当指導主事>

小倉 久代 豊岡 大画